

2025年

8月

南風

ふれあい南伊豆ホスピタル

第264号

● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていける為の支援をすすめています ●

編集・発行 医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル 〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510

なぜ精神科医療に 検体(検査)が必要なのか

体の異常がある場合は、病院では原因を特定するための様々な検査を実施します。

その代表的なものに血液検査や検尿があり、このように人の体内にあるものを採取して行う検査を

「**検体**」と呼びます。検体検査は精神科でも行われています。

では、こころの病気で受診される患者様の検査がなぜ必要なのでしょう？

Q. 血液検査をするのはなぜですか？

A. 患者様の心身の状態を正確に把握するためです。身体とこころは密接に関わっています。

例えば、こころのストレスだけではなく、**内臓の状態が悪いことが、うつ病につながっている**場合もあります。

うつ病をはじめ患者様のさまざまな疾患を明らかにして安全に治療を進めるために血液検査が行われます。



Q. 血中濃度とは？

A. 血液内に入っている薬の量（濃度）を表しています。口から投与した薬は、胃や腸で血液中に吸収され全身に運ばれて目的部位（抗てんかん薬では脳内）で効果を発揮します。

薬の処方箋通り服薬しても体重の増減や吸収の程度、腎臓や肝臓の具合によって血中濃度は変動します。

高齢者は腎臓や肝臓の機能が若年層と比べて低下していることが多く、薬が体にとどまる時間が長くなります。

血中濃度測定を行うことで、客観的に薬の体内レベルを把握でき、適切な範囲を維持できるよう調節しやすくなります。これによって、治療の安全性と有効性を高められます。

何か体の不調を感じましたら主治医に相談し、血液検査をしていくことが大切です。

Q. 心電図をとるのはなぜですか？

A. 不整脈が起きますと、めまい、吐き気、冷や汗、息苦しさ、胸の違和感などが生じることがあります。

そのため、**精神症状や不整脈によってそうした症状が起きていないかを確認するため**に行います。

また、精神科で使用する薬（向精神薬、抗うつ薬、ADHD 薬、気分安定剤など）には、副作用として心電図に変化が出ることがあります。

検査では、薬の副作用は**心臓・肝臓・腎臓に影響を与えることが稀にある**ので、定期的な血液検査と心電図検査の実施をお勧めいたします。

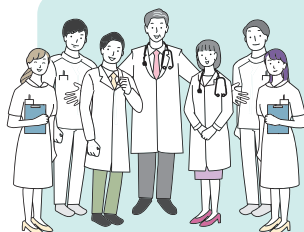


Q. 精神科で脳波検査をするのはなぜですか？

A. 医療分野ではてんかんなどの診断に使用されています。
てんかんは精神症状をきたす脳疾患です。

てんかんの人は幻覚が見えたり、妄想的になったり、怒りっぽくなるなど、統合失調症などの様々な精神疾患で認める症状が出現することがあります。

同じ精神症状であっても、てんかんと統合失調症では治療方法が違うため、どの病気が原因で症状を引き起こしているのかを確かめるために脳波検査を行う必要があります。



さいごに

「心の病気」というのは、誰でもかかってしまう病気です。
一人で悩まず、一緒に治療していきましょう。

精神科病院には、治療から社会復帰までサポートできる様々なスタッフが揃っています。



熱中症にお気をつけください！

★ふれあい南伊豆ホスピタル
☎0558-62-1461



2025年 8月発行 Vol.264

【監 修】山本 善治

【構成・編集】柴崎 貴弘

【デザイン】F&Y

【作業協力】支援センターふれあい
利用者の皆さん
ふれあい南伊豆ホスピタル
広報委員会

